

LECTURE

講演会報告

大学



この現状を踏まえ、大学図書館には学術情報の蓄積・照会を行い、研究者の活動を支援する役割が求められる。学術情報を低コストで共有できるシステムの必要性を主張されました。参加学生は、今後の図書館の役割と責任を理解しました。

約300人の参加者のもと開催された講演会では、近年の学術雑誌の価格高騰を背景に、学術雑誌のビジネスモデルは変化しつつあり、大学等が学術情報をWebで公開する「機関リポジトリ(情報の貯蔵庫)」、学術論文を無料で閲覧できる学術雑誌の「オープンアクセス化」が紹介されました。また、国公立大学図書館協力委員会では、大学図書館等が学術雑誌の購入費用に充てていた資金をオープンアクセスの運営に転用し、高エネルギー物理学分野の学術雑誌をWebで無料閲覧できることを目的とした、欧州原子力研究開発機構(CERN)が中心に進めているオープンアクセスプロジェクト「SCOAP³」への参加を決めたことが報告されました。

- 第12回人間情報学部講演会・第4回文学部(図書館情報学科)講演会「学術情報流通を考えてみようービジネスモデルの違いー」
- 筑波大学附属図書館長 筑波大学図書館情報メディア系教授 中山伸一氏
- 10/22 長久手キャンパス



憲法・ジェンダー法学が専門の中里見博先生はまず、日本国憲法が人権擁護という点で世界的な遺産をとりこんでおり国際的にも最先端のモデルであることに触れたのち、なかでも24条が男女平等社会を作る基礎となっていることを、歴史をふまえた草案にまでさかのぼり、ていねいにご説明くださいました。

24条は婚姻における両性の平等が明記された法律です。今ではあたりまえに感じられる家族における両性の平等ですが、つい60年ほど前までは結婚を親が決めたり、家庭を男性が支配したりすることに疑いの目が向けられていませんでした。その成り立ちをふりかえれば、24条が家族内での男女平等を保証し男性が暴力的にふるまうことを防いでいることがわかります。

一方で中里見先生は憲法を書きかえようとする動きがあることにも言及され、家族観の違いに注意を促すとともに、憲法24条と9条および25条とのつながりや国の予算との関わりについてもわかりやすくまとめられました。

- ジェンダー・女性学研究所主催 第26回定例セミナー 「憲法24条を知っていますか?ー両性の平等と非暴力の礎」
- 徳島大学総合科学部准教授 中里見博氏
- 11/21 長久手キャンパス



劇団四季の名古屋公演本部長である小嶋俊介氏をお招きし、劇団の舞台裏について語っていただきました。30代の若さで本部長に抜擢された小嶋氏は、流暢ながら落ち着いた語り口で「確固たる信念はいかに人の心を動かすか」という実例をいくつも示してくださいました。それは演劇という芸術面での信念ばかりでなく、劇場運営という経営面においても言えることです。はじめに小嶋氏は、この日本最大級の劇団に関する数字を示して聴衆を驚かせました。例えば2011年の公演回数は、なんと3800回以上。拠点劇場は全国8カ所、所属する劇団員の数は13000人を超えます。その精力的な公演活動は「日本どこどこでも質の高い演劇を提供する」という信念のもと北海道から石垣島まで全国各地に及んでいます。演劇ひとすじでこれだけの規模の組織を運営していくことは、並大抵のことではありません。その苦労と努力について小嶋氏は、劇団60年の歴史をひも解きながらお話してくださいました。また創設当初からのこだわりのなかで特に印象的だったのが、「母音法」に代表される独自の的方法論でした。台本を正確に観客に伝えるべく考え抜かれたこの稽古法には「原作のもつ生きる喜び、感動を伝える」という揺るぎない信念が感じられ、会場一杯の聴衆を感動させていました。



- 第6回文学部(英文学科)講演会 「劇団四季と文学ー文学作品を立体化するー」
- 劇団四季名古屋公演本部長 小嶋俊介氏
- 11/20 長久手キャンパス



LECTURE

講演会報告

大 学

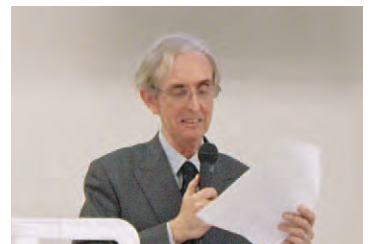


本日の『古事記』には、そうした古代の言語世界の伝統が息づいていることをお話しいただきました。会場には130人ほどの学生が集まり、真剣に耳を傾けていました。我々が失ってしまった、古代の豊かな言語世界が学べた講演会でした。

フィアラ先生は、日本語学から日本古典文学まで幅広くご専門とされ、ご著書には、『日本語の情報構造と統語構造』(ひつじ書房)をはじめ、チエコ語による『古事記』や『源氏物語』の完訳などがあります。

今回の講演では、『古事記』に残された口頭伝承の痕跡が大きなテーマとなりました。それがはつきりと読み取れるのが、スサノオとアマテラスが「誓約(ウケヒ)」をおこなう場面なのだと思います。この場面は『古事記』だけでなく、『日本書紀』の本文や、そこで紹介されている異伝にもみられるものです。しかし、物語に登場する要素(剣や玉、そこから生まれる男神や女神)は同じでも、その組み合わせ方はそれぞれの文書で異なっています。先生によれば、そうした変化は語句を入れ替えながら暗唱する、口頭伝承に特有の記憶法の反映なのだと思います。同様の変化は、インドの口頭伝承などでもみられるといい、日本の『古事記』には、そうした古代の言語世界の伝統が息づいていることをお話しいただきました。

- 第7回文学部(国文学科)講演会『『古事記』口頭伝承と記録の融合—いわゆる「誓約(ウケヒ)」の成立と意義を探る—』
- 福井県文書館副館長・福井県立大学名誉教授 カレル・フィアラ氏
- 12/17 長久手キャンパス



- 第8回文学部(教育学科)講演会「インターネット・ケータイ時代の子どもたちの暮らし」
- 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授 大谷尚氏
- 12/20 長久手キャンパス



メディアとテクノロジーの影響として、テレビゲームは視力への悪影響ばかりでなく、ストーリーやゲームの条件からの影響によりジェンダー・イシュー(性的役割の固定化など)や攻撃性、遊びの孤立化、命の軽視など、子どもの心の発達を低下させることも考えられます。現在のインターネットとケータイがもたらす状況として、ネットで人間としての価値、値段をゲーム感覚で決めるなど命の軽視だけでなく、人格の軽視をもたらしていることもあります。ケータイは電話機能だけでなく、カメラやインターネット、GPSなどの多機能も備えており、犯罪の道具や凶器になりうることも親や教師は認識すべきです。教師は、子どもを蝕むものについて正確に知ることが重要であり、常に最新の情報テクノロジーに精通し、子どもを守る技能と手段を持たなければなりません。聴衆は大谷先生のユーモアあふれる話題と豊富な資料に、楽しく学び、教員生活を目指す上で大変有意義な知識を得ることが出来ました。

講演会報告

中学校・高等学校

- 高等学校・中学校PTA講演会「原発、エネルギーと日本の自然」
- 中部大学 教授 武田邦彦氏
- 11/12 記念講堂



聞くものを一瞬も飽きさせない話術は、何より人間に対する理想と信頼から出発していることに気づかされました。お話を聞いた方の多くが、大きな満足感を感じた講演会となりました。準備の段階からお手伝いいただいた役員の皆様にお礼を申し上げます。

テレビでもおなじみの武田邦彦先生のお話を楽しみに、当日は300人を超える父母が記念講堂に集まりました。原発事故が発生した場合の、愛知県、名古屋市での危険性にはどのようなものがあるか、というお話から始まりましたが、詳しく具体的な内容に、ため息をついたり、真剣にメモを取ったりと、多くのお母様が大きな関心を持たれたようでした。先生のお話の内容も多岐にわたり、会場は何度も驚きと笑いの渦に巻き込まれました。

将来世代に少しでも良い未来を残したい、そのためにその時代に生きる子どもたちに、正しい知恵と判断力を持つて欲しいと力説されました。先生が正しい情報を大切になさるのは、もちろん学者であるということでもあります。根底にはそこに住む人々、とりわけこれからの世代を担う子どもたちへの深い愛情が根底にあることを強く感じました。